

就任のご挨拶

稲むらの火の館
名誉館長 西 博義

この度、3月1日付で西岡利記広川町長より「稲むらの火の館」の名誉館長に任命の辞令をいただきました。

昨年12月22日、国連総会本会議で、郷里の偉人濱口梧陵翁の事績で有名な安政の大津波の起った日、11月5日を「世界津波の日」に制定されるという重要な時期に、名誉館長に就任することになり、責任の重さに身の引き締まる思いです。

これからは、崎山館長はじめ、職員と力を合わせて、頑張っまいますので、ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

アチェ州知事御来館

1月16日、「稲むらの火の館」とインドネシア共和国の「アチェ津波博物館」との間で、津波防災の情報発信等での協力協定の調印をしました。3月8日、アチェ州のザイニ・アブドゥラ知事夫妻一行が来館されました。

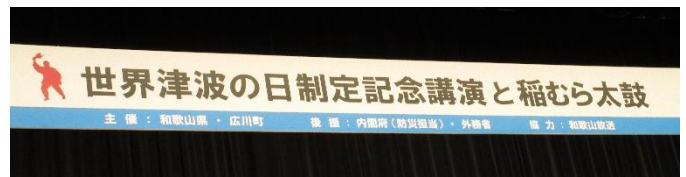
アチェは皆様のご記憶にもあると思いますが、平成16年12月26日のスマトラ島沖地震・インド洋津波の被災地です。一番大きな被害のあった所です。館内では、3D映画や津波



シミュレーションをご覧になりながら、アチェの被災体験も話されていました。

「世界津波の日」制定記念行事

昨年12月、「稲むらの火」の11月5日が第70回国連総会で「世界津波の日」に制定されました。これをお祝いするために、2月26日には和歌山県民文化会館で広川町と和歌山県の主催による「世界津波の日制定記念講演と稲



むら太鼓」が開催されました。

開会行事に続いて、第一部は関西大学社会安全学部の河田恵昭教授が「和歌山から発信する世界津波防災の知恵」という講演をされました。「南海地震は必ず起る。南海トラフの巨大地震はとんでもない津波。他人事ではなく、逃げるが勝ちということを肝に銘じてほしい。」という事を話された。

第二部では、広小学校5、6年生が「稲むら



の火～津波から村を守った庄屋の話」という合唱がありました。その後、特別ゲストの杉良太郎・伍代夏子御夫妻による挨拶(トークショー)があり、ユーモアたっぷりのお話で観衆は聞き入っていました。次に、杉さんが構成・プロデュースした「稲むら太鼓」が演奏されました。

書籍・雑誌やパンフレットに
記事掲載されています

最近、いろいろな雑誌やパンフレットに「稲むらの火」や「世界津波の日」に関する記事等が掲載されています。



「耐久高校同窓会報」
「道路建設」
「ホンダのPR誌「スマイルアップ」」
「日本NPO学会」

ニューズレターに記事が掲載されています。

また、書籍にも「稲むらの火」「濱口梧陵」が取り上げられています。

前 壽人著
「第三の男傑」、
前氏は耐久高校の卒業生で、「館」へも取材に来られ、資料提供もしました



し、「濱口梧陵」のボリュームが多いです。前作は「明恵さん」です。

豊田ひさき著『「東井義雄の授業づくり」第四章で「稲むらの火」の授業とESD』として書かれています。次は、愛葉常二氏の『「3・11 東日本大震災あれから五年 被災地のこころと向き合って一復興への軌跡」』の中で、第三章の一、「稲むらの火」に学ぶ防災と災害復興』として掲載されています。愛葉氏には電話で取材を受けたり、当館の資料も参考にされて著されたようです。

3, 11から5年が経過

東日本大震災の平成23年3月11日から5年が経過しました。あらためて、津波防災を考える日でもありました。

この日、広小学校では広八幡神社までの避難訓練がありました。その後、校庭で和歌山県警察や湯浅・広川消防署の救助訓練などが行われ、



ドクターヘリも校庭へ降りました。このような

各種組織の訓練を一緒にするのも町内では珍しいと思いますが、子ども達にとっても良い経験になったと思います。

また、この日午後1時から和歌山放送が防災特別番組を放送し、「稲むらの火の館」からも中継放送がされました。アチェの州知事も、東北での5周年記念慰霊祭で来られたそうです。また、3月16日には「岩手日報」の記者さんも5周年特集の取材に来られ、「津波てんでんこ」の話などされていました。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL：0737-64-1760／FAX：0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano>
hi/

*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）

*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）

年末年始（12/29～1/4）

*記念館だけの入場は無料です。